

あげお能・狂言鑑賞会「清経」

令和5年11月19日、上尾市コミュニティセンターホールにて、「あげお能・狂言鑑賞会」を、11回目となる今回、「清経」を演目として開催いたしました。その源平合戦の無常、象風、織りなす心鑑賞会と、その妻の無念が織りなす心鑑賞会と、その描写する圧巻の鑑賞会と、感動のお声をいただきました。



「清経」のシテ方・梅若泰志氏より、見どころの解説を頂きました。

作品に登場する和歌の説明、また、型や謡の説明もして頂き、情景がよりわかりやすく鑑賞できました。

「演じる人と観る人とで完成する芸術なので、観て感じて、イメージを膨らませることが大切です。」



仕舞では、梅若泰志氏のご子息が出演されました。



狂言の「鬼瓦」も、夫婦を題材にした作品。いかつい鬼瓦が誰かにそっくり…誰ぞ? 「国許の女房だ!」客席から笑いが起きました。



開演前のロビーでは、黄檗東本流の大熊鶴泉さんのご厚意により、来場のお客様に煎茶のおもてなしもあり、多くのお客様にお楽しみいただきました。豪華な生け花も注目を集めていました。



休憩時間中、能のグッズの販売コーナーも好評でした。



『清経』事前セミナー

令和5年10月19日（木）「あげお能・狂言鑑賞会 事前セミナー」を開催しました。
11月19日（日）の本公演「清経」に向けて、シテ方で出演の梅若泰志先生より、初心者でもわかりやすく解説して頂きました。



「能は難しいって言われますが、時々聞こえた知ってる日本語で、感じればいいんです。」



毎年「あげお能・狂言鑑賞会」を観覧している方、初めて能に触れる方…合わせて40数名の受講者が集まりました。



笛で自然の物の音を表現するため、わざと音程をずらしてあるそうです。

先生の謡(うたい)や舞の実演に、生の迫力を感じました。



面を付けた時の見え方を体験。意外と視野が狭く、「感覚」で舞っているそうです。



謡(うたい)の体験。抑揚などを習い、皆さんお腹から声を出しました。



面や扇、着物などを見せて頂き、それぞれの意味合いを教えてくださいました。皆さん興味深々に見入っていました。



◆ セミナーに参加された方々からの声 ◆

- ・こうやって、じかに先生に教わる機会ってあんまりないから、すごく貴重でした。
- ・本公演が楽しみになりました。
- ・友人を誘って来ました。いっしょに本公演も観ます！
- ・上尾はいいわね、能が観られるなんて。